

第1章 実行プログラムの策定にあたって

第1章

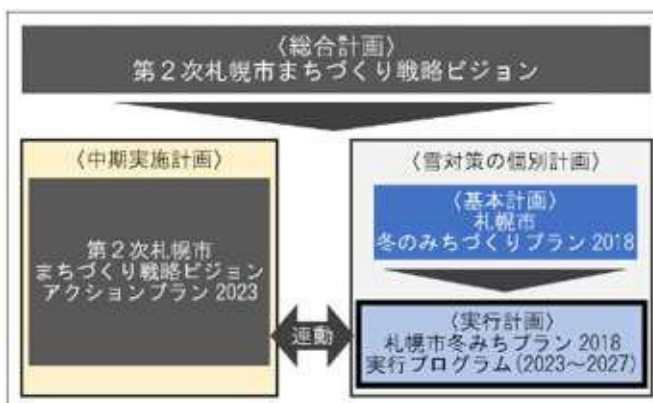
札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2023～2027)策定にあたって

1 策定目的

札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2023～2027) (以下、「本実行プログラム」とする。)は、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を実現するための中期実施計画「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023」と連動するとともに、関連する個別計画や個別事業などと整合を図りながら定めた、2023年から2027年(5年間)の計画です。

札幌市冬のみちづくりプラン 2018 (以下、「冬みちプラン」とする。)の実行性を確保するため、冬みちプランで掲げた各視点において取組項目を掲げるとともに、本実行プログラムで特に推進すべき事柄として設定した主な取組について、個別に実施目標を定め進行管理を行っていきます。

本実行プログラムは、社会環境や市民ニーズの変化に応じて、計画期間中であっても適宜、取組内容の見直しや追加を行います。



2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
札幌市冬のみちづくりプラン 2018 (10年間)									
	前実行プログラム(2019～2023)								
					本実行プログラム(2023～2027)				

【札幌市冬のみちづくりプラン 2018】



■ 策定

2018年12月

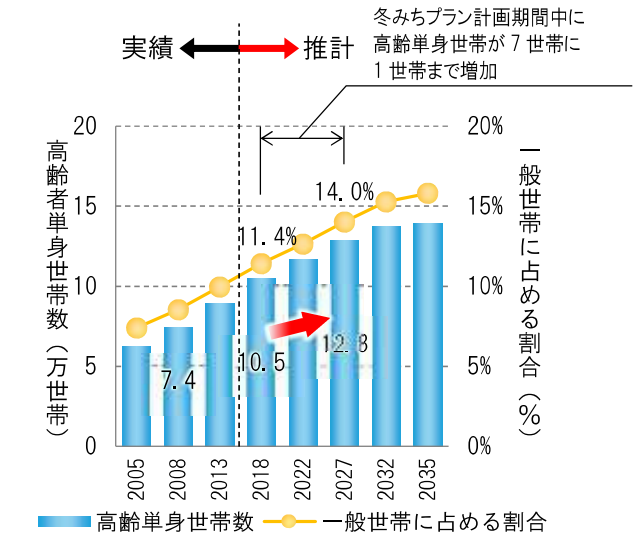
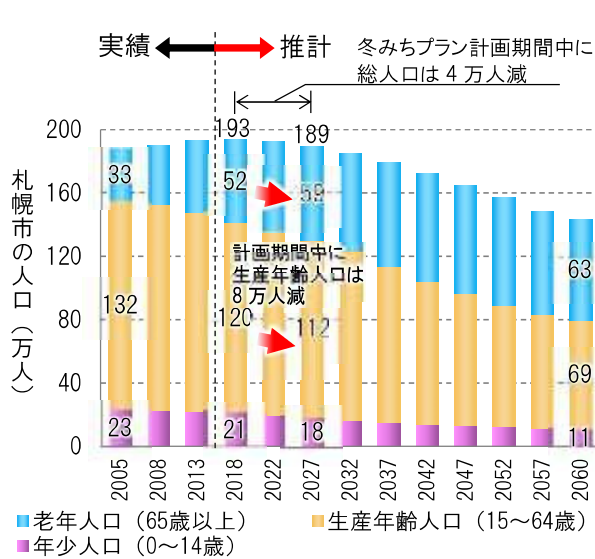
■ 掲載ホームページ

<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/keikaku/fuyumichiplan.html>



2 現状と課題

(1) 迫る人口減少・超高齢社会の進行



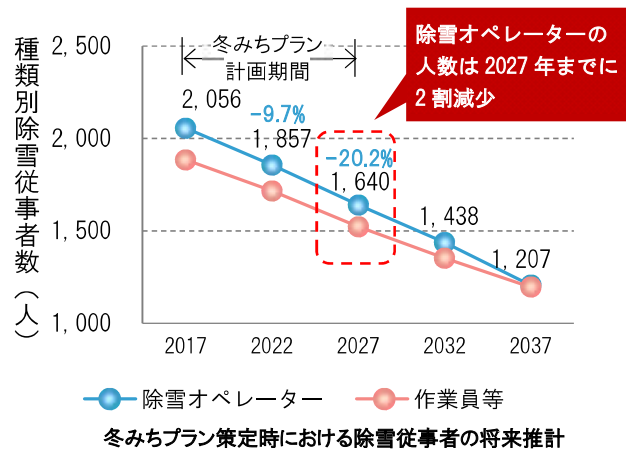
(2) 雪対策の主な現状と課題

課題1 市民ニーズに対応した除排雪

- ・市民ニーズや超高齢社会などに応じた冬期道路交通の確保
- ・パートナーシップ排雪制度¹の利用に係る町内会の負担増
- ・大雪など記録的な気象への対応

課題2 危ぶまれる除排雪体制

- ・除雪従事者²の将来的な不足
- ・高齢化の更なる進行
- ・除雪オペレーター³の厳しい労働環境
- ・除雪機械の老朽化の進行
- ・雪堆積場⁴の郊外化による運搬距離の増大



課題3 増大する除雪予算⁵

- ・労務単価⁶や機械損料⁷の高騰
- ・除雪予算の増加

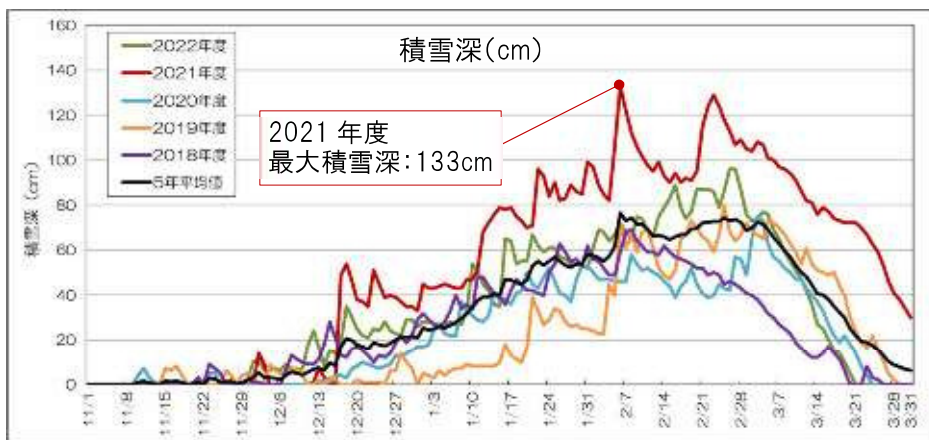
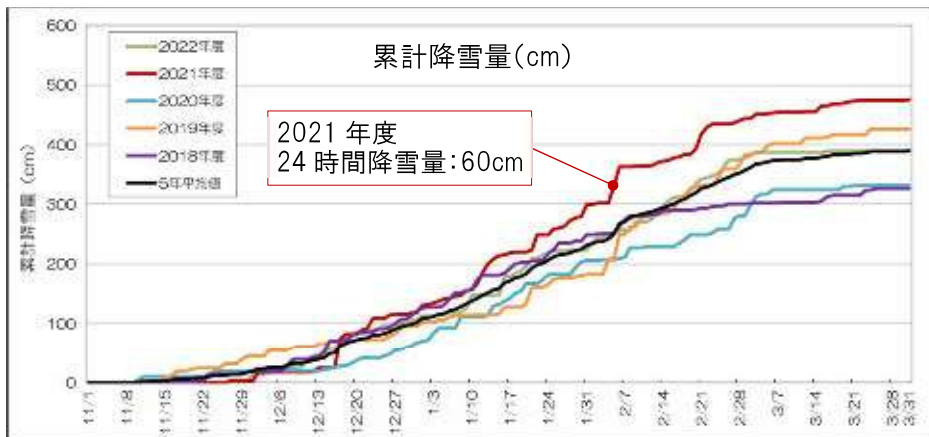
課題4 市民との協働による雪対策

- ・高齢化の進行に伴う出入口の雪処理への負担感の増加
- ・ボランティアの担い手不足

課題5 雪対策に対する市民意識

- ・雪対策全般について、より一層の理解の促進が必要

第1章 実行プログラムの策定にあたって



過去5年間における札幌市の気象状況(11月～3月)(札幌管区气象台)



道幅が狭い幹線道路(2021年度)



道幅が狭い生活道路(2021年度)

令和3年度(2021年度)は想定を大きく超える大雪に見舞われ、公共交通機関の運休や市内各所での渋滞発生、生活道路除排雪の大幅な遅れなど、市民生活に大きな影響が及んだ。

3 札幌市冬のみちづくりプラン 2018 の概要

札幌市では、2018年12月に雪対策の基本計画として「札幌市冬のみちづくりプラン2018」（計画期間：2018～2027年度）を策定しました。

社会環境が大きく変化する状況の中であっても雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう、「目指すべき将来」を次のように設定しています。

**【目指すべき将来】
安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現**

実現に向けては、除雪予算の増加を可能な限り抑えるとともに、ICT⁸などの先進技術を活用することなどにより、作業の効率化や省力化、労働環境の改善などにつながる取組を進め、安定的に除排雪体制を維持していきます。

視点1 安心・安全な 冬期道路交通の確保	除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準 ⁹ の維持を目指す。
視点2 除排雪作業の 効率化・省力化	持続的に除排雪作業を進めるため、ICTなどの先進技術を活用し、作業の効率化や省力化を進める。
視点3 除排雪体制の 維持・安定化	企業の経営の安定化に資する取組や労働環境の改善、人材の育成を支援し、除排雪体制の維持安定化を図る。
視点4 雪対策における 市民力の結集	地域レベルの除雪に取り組む地域団体やボランティア企業の活動を支援し、地域の除雪力の向上を目指す。
視点5 雪対策に関する 広報の充実	市民が快適な冬を過ごせるよう、幅広く冬のルールやマナーなどの理解につながる広報を進める。

以上5つの視点に基づいた取組を実施することで、以下の効果が見込まれます。
「効率化・省力化」「労働環境の改善」「担い手確保」「生活環境改善」「協働の推進」

第1章 実行プログラムの策定にあたって

4 札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2019～2023)の 主な取組と今後の進行管理

各視点において計106項目の取組を掲げ、それらについて具体的な実施内容や実施目標を定めて進行管理を行った。

【本実行プログラムにおける主な取組】

- ・視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保 ⇒「パートナーシップ」排雪制度の断面選択制導入
大雪時のフェーズに応じた対策の設定など
- ・視点2 除排雪作業の効率化・省力化 ⇒新川融雪槽の能力増強



整備前



整備後(投雪口2か所増)

- ・視点3 除排雪体制の維持・安定化 ⇒雪堆積場への週休日導入
- ・視点4 雪対策における市民力の結集 ⇒砂まき活動や除雪ボランティア活動における広報動画の作成、放映
- ・視点5 雪対策に関する広報の充実 ⇒雪体験授業¹⁰の幼稚園への拡大(雪体験教室)やLINEによる情報発信



雪体験教室



LINEによる生活道路の
新雪除雪出動情報のお知らせ

本実行プログラムでは、対象範囲の拡大や内容の充実・改善などを行う「拡充」となる21項目について、重点的に取り組む。

前期実行プログラムで、「新規」「拡充」に取り組み「継続」に移行した48項目と、当初から「継続」である37項目を加えた85項目についても、引き続き取り組むことで、冬みちプラン全体の実効性を確保しながら、推進していく。

【今後の進行管理】

	拡充	新規・拡充 ⇒ 継続	継続	合計
視点1	9項目	15項目	16項目	40項目
視点2	7項目	10項目	5項目	22項目
視点3	3項目	8項目	7項目	18項目
視点4	1項目	9項目	3項目	13項目
視点5	1項目	6項目	6項目	13項目
合計	21項目	48項目	37項目	106項目